

Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 ブラウンバックセミナー

# Brown Bag Seminar No. 221

2026 2.4 (水) 12:10 ~ 12:50

12:10-12:15 ◆発表者紹介  
12:15-12:40 ◆プレゼン  
12:40-12:50 ◆質疑応答

オンライン (Zoom) 登録はこちら

https://us02web.zoom.us/join/register/WN\_Mtg89pTW5xmITvj1E4rs1A

【技術支援】九州大学 Q-AOS

## 宇宙の循環と星・惑星の誕生



7 天体物理学の発展  
11 天体物理学の発展

Key Words

天体物理学  
星間物質  
恒星と惑星の形成

アルズマニアン ドリス 准教授  
九州大学 高等研究院

ドリス・アルズマニアン氏は、天体物理学を専門とする研究者です。フランスのパリ・ディド大学にて天文学・天体物理学の博士号を取得しました。フランス、ポルトガル、日本において複数の研究職を経た後、現在は九州大学高等研究院の准教授であり、同大学理学部地球惑星科学科のメンバースです。主な研究テーマは、星形成に至る物理過程（乱流、重力、磁場）の役割を解明することです。また、恒星放射が周囲の星間物質に与える影響についても研究しています。研究においては、国際的なさまざまな望遠鏡によって取得された多波長の観測データを解析しています。同時に、理論研究者と協力し、観測結果を数値シミュレーションや理論モデルと比較・検証しています。彼女の研究の最終的な目標は、星間物質の循環を支配する物理過程および時間スケールを制約すること、星形成の包括的な理解を構築することです。さらに、星形成理論の発展した枠組みの中で太陽系の誕生環境について議論し、すべての恒星の形成過程の研究を、私たちの星である太陽の起源へと結びつけることを目指しています。これにより、居住可能な惑星の形成や地球における生命の誕生の解明にも迫ろうとしています。

銀河の基本的な構成要素は恒星です。私たちの太陽のような低質量の恒星は、生命が誕生しうる惑星を持つ可能性があります。一方、最も大質量の恒星は、化学的な豊富化やエネルギーの注入を通して銀河の進化を支配します。恒星がどのように形成され、進化するのかを理解することは、宇宙全体のより正確な描像を得ることにつながります。にもかかわらず、恒星がどのように形成されるかという基本的な問いは、まだ十分に解明されていません。宇宙の進化は、恒星と恒星間物質（ガスや塵で構成される星間空間）の間で物質とエネルギーが絶えず循環する過程の結果として生じます。この星間物質は、細長い物質のネットワークである「フィラメント」と呼ばれる構造を形成しており、ここで新たな恒星が生まれます。本発表では、フィラメント、恒星、惑星の形成に関する包括的な物理的シナリオを提案する、最近の理論研究と観測研究をまとめて紹介します。

Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 ブラウンバックセミナー

# Brown Bag Seminar No. 222

2026 2.18 (水) 12:10 ~ 12:50

12:10-12:15 ◆発表者紹介  
12:15-12:40 ◆プレゼン  
12:40-12:50 ◆質疑応答

オンライン (Zoom) 登録はこちら

https://us02web.zoom.us/join/register/WN\_MD1mcXR\_Tw5QinfEaeHWvg

【技術支援】九州大学 Q-AOS

## 柔道療育の体系化 —柔道を通じた発達支援とは—



3 子どもの発達  
4 子どもの発達  
10 子どもの発達  
16 子どもの発達  
17 子どもの発達

Key Words

柔道 武道  
発達支援  
スポーツ療育 アダプテッドスポーツ

小崎 亮輔 講師  
鹿屋体育大学 スポーツ・武道実践科学系

1990 年埼玉県出身、10 歳より講道館柔道に取り組み、現在五段を取得しています。順天堂大学大学院博士後期課程を修了し、2018 年 3 月に博士（スポーツ健康科学）を取得しました。その後は順天堂大学非常勤助教を経て、2021 年 4 月に鹿屋体育大学スポーツ・武道実践科学系に着任しました。現在は同大柔道部監督も務めています。大学院在学中には、NPO 法人 Judo3.0 を共同で創業しました。当該法人は、柔道を通じた国際交流に加え、神経発達症やその特性のある子供への指導方法や支援に関する講習会を企画、運営する事業を展開しています。現在は、柔道を通じた発達支援活動である「柔道療育」の体系化を主要な研究テーマとして取り組んでいます。

柔道療育とは、柔道を発達支援の文脈で用いる一連の活動を指し、放課後等デイサービスを中心に実施されています。本発表では、注意欠如・多動症や自閉スペクトラム症などの神経発達症やその特性をもつ子供たちに対して、柔道が発達支援として機能しうることを紹介します。「格闘技特性を通じた近距離での対人コミュニケーション」である柔道は特性のある子供たちにとって、社会性（挨拶や順番、約束を守ること）を育んだり、衝動性（とっさに手が出たり、動いてしまうこと）の抑制につながる可能性があります。また、放課後等デイサービスでの実践や指導者への聞き取りから整理してきた「柔道療育」の枠組みを紹介し、支援の工夫や安全面の配慮、今後の研究課題についても報告します。

Q-AOS 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 ブラウンバックセミナー

# Brown Bag Seminar No. 223

2026 2.25 (水) 12:10 ~ 12:50

12:10-12:15 ◆発表者紹介  
12:15-12:40 ◆プレゼン  
12:40-12:50 ◆質疑応答

オンライン (Zoom) 登録はこちら

https://us02web.zoom.us/join/register/WN\_3cXdzEUVTFY0z1ep0bTmTQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

## 韓国語から広がる知の地平： その魅力と魔力



4 韓国語の学習  
10 韓国語の学習  
16 韓国語の学習

Key Words

言語学  
韓国語 ハングル  
言語学習

辻野 裕紀 准教授  
九州大学 言語文化研究院 言語環境学部

愛知県名古屋生まれ。東京大学大学院人文社会科学系研究科博士課程修了。博士（文学）。誠信女子大学校（韓国・ソウル）専任講師を経て、2012 年 4 月、九州大学大学院言語文化研究院に専任講師として着任しました。2015 年 4 月から准教授、2017 年 4 月からは大学院地球社会統合科学府准教授、2022 年 4 月からは韓国研究センター副センター長も兼任しています。専門は言語学、韓国語学、音韻論、言語思想論。言語学を中心とした人文科学的視座から韓国語や日本語、言語一般を広く眺め、その成果を研究・教育に反映させようと日々研鑽を積んでいます。2025 年度前期には NHK ラジオ「まいにちハングル講座」講師を務めました。著書に「形と形が出合うとき：現代韓国語の形態音韻論的研究」（九州大学出版会、2021 年）などがあります。

かつて「近くて遠い国」と呼ばれた韓国は、音楽やドラマ、映画、文学などといったカルチャーを主たる契機として今や「近くて近い国」になりました。それにともない、韓国語を学ぶ人も年々増えています。しかしながら、多くの場合、韓国語はどこまでも文化理解やコミュニケーションのツールとしてのみ位置づけられ、韓国語それ自体の面白さについて語られることは決して多くありません。本セミナーでは、韓国語やハングルの言語学的な観点から照らし、その魅力と魔力を皆さまとともに考えます。